

苫小牧市立小中学校 規模適正化地域プラン



とま子ヨッパ

©2011 苫小牧市

平成 26 年 11 月

苫小牧市教育委員会

目 次

I	小中学校規模適正化の推進	1
II	小学校の規模適正化～Aブロック	2
1	Aブロックの児童数及び施設状況	2
2	各学校の現状	4
3	Aブロック内の問題	5
4	適正化の方向性	5
5	適正化の内容	5
6	Aブロック適正化の課題・対応	5
	Aブロック校区図	6
III	小学校の規模適正化～Eブロック	7
1	Eブロックの児童数及び施設状況	7
2	各学校の現状	9
3	Eブロック内の問題	10
4	適正化の方向性	10
5	適正化の内容	10
6	Eブロック適正化の課題・対応	11
	Eブロック校区図	11
IV	中学校の規模適正化～Dブロック	12
1	Dブロックの生徒数及び施設状況	12
2	各学校の現状	13
3	Dブロック内の問題	13
4	適正化の方向性	13
5	適正化の内容	13
6	Dブロック適正化の課題・対応	13
	Dブロック校区図	14

- この地域プランは、Aブロック・Eブロックの小学校、Dブロックの中学校について記載しています。
- 児童生徒数推計の考え方については、平成26年度の0歳児を基本に平成32年度までの推計値としています。

■■■■ 小中学校規模適正化の推進 ■■■■

本市では、少子化の影響により児童生徒数が減少するとともに1校あたりの学級数が減少し、学校の小規模化が進んでいます。

一方、宅地開発が進む東部地域では、児童生徒数が急増し、学校の新設と大規模化が進んでいます。

こうしたことから、平成21年12月「苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針」を定め、子どもたちに望ましい教育環境を整えるため、学校規模の適正化と適正配置に取り組むこととしました。

適正化基本方針では、標準的で望ましい学校規模（適正規模）を示すとともに、適正配置が全市的なバランスの中で検討できるよう市内をAからEの5つのブロックに分け、それぞれの学校、地域の実情や特殊性を十分考慮しながら、しかるべき時期に学校の適正化を検討するとしており、今回、早期に方向性の判断が必要な小学校Aブロック、小学校Eブロック及び中学校Dブロックについて検討を行うものとします。

○ 地域区分

	ブロック	小学校	中学校
対象校	A	澄川小、錦岡小、明德小、泉野小	啓明中、緑陵中、凌雲中
	B	北光小、豊川小、北星小、日新小	明倫中、啓北中
	C	清水小、美園小、明野小、緑小	和光中、開成中、明野中
	D	ウトナイ小、拓勇小、沼ノ端小、拓進小	青翔中、沼ノ端中
	E	苫小牧東小、苫小牧西小、若草小、大成小、糸井小	光洋中、苫小牧東中
対象外		樽前小、勇払小、植苗小	勇払中、植苗中

○ 学校規模

適正化基本方針では、本市の標準的で望ましい学校規模を、小学校は12～24学級、中学校は9～18学級としています。

それ以外を学級数により過小規模、小規模、大規模、過大規模に区分し、小学校は11学級以下、31学級以上、中学校は8学級以下、25学級以上の規模になる学校を適正配置の必要な学校の目安とするとしています。

	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模
小学校	～5学級	6～11学級	12～24学級	25～30学級	31学級～
中学校	～2学級	3～8学級	9～18学級	19～24学級	25学級～

■■■■ 小学校の規模適正化～Aブロック ■■■■

Aブロック内の小学校数は、現在、4校（澄川小、錦岡小、明德小、泉野小）です。

Aブロックの児童数及び学級数は、11学級以下の小規模校が1校（明德小）あり、ブロック全体の傾向として、今後、児童数の増加が見込めないことから、この地区の適正な小学校数は3校と考えます。

1 Aブロックの児童数及び施設状況

Aブロックの小学校4校の児童数及び学級数は、昭和60年には、3,010人、81学級ありましたが、平成26年5月現在では、1,620人、53学級に減少しています。

平成32年度までの児童数及び学級数は、微減で推移することが見込まれます。

施設面では、耐震診断の結果、澄川小学校の一部校舎と屋内体育館はC判定、錦岡小学校の一部校舎はB判定となっています。

(1) 児童数及び学級数の推計

※平成26年5月1日現在の児童数をスライド

		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
児 童 数	澄川小	554	512	508	514	490	478	457
	錦岡小	443	446	441	434	435	431	418
	明德小	185	175	167	155	147	144	146
	泉野小	438	423	455	444	437	415	411
	計	1,620	1,556	1,571	1,547	1,509	1,468	1,495
学 級 数	澄川小	19	17	17	16	16	16	14
	錦岡小	14	15	15	14	13	12	12
	明德小	7	6	6	6	6	6	6
	泉野小	13	13	14	14	14	13	13
	計	53	51	52	50	49	47	45

(2) Aブロックの学校施設状況

学校名	建物	建築年	面積 (㎡)	耐震判定等	備考
澄川小	校舎 1	S 54, 55	4, 800	C	H26 補強工事
	校舎 2	S 56	735	安全	
	校舎 3	S 56	795	安全	
	屋体 1	S 54, 56	1, 200	C	H26 補強工事
錦岡小	校舎 1	S 47, 49	906	A	
	校舎 2	S 41	479	B	H26 補強工事
	校舎 3	S 44	396	B	H26 補強工事
	校舎 4	S 50, 52	1, 209	B	H26 補強工事
	校舎 5	H1	1, 000	安全	
	校舎 6	H9	532	安全	
	屋体 1	S 63	1, 091	安全	
明德小	校舎 1	S 58	4, 652	安全	
	屋体 1	S 58	894	安全	
泉野小	校舎 1	S 60	4, 673	安全	
	校舎 2	S 63	835	安全	
	校舎 3	H3	733	安全	
	屋体 1	S 60	894	安全	
	屋体 2	H7	221	安全	

※ 耐震上の判断基準（耐震改修促進法に基づく告示参考）

A判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

B判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性がある。…耐震補強工事が必要

C判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。…耐震補強工事が必要

2 各学校の現状

(1) 澄川小学校

昭和54年に錦岡小学校と日新小学校の児童数増加により分離新設されました。その後、学級数は増加し、昭和59年に1,556人、35学級の大規模校となり、昭和60年に泉野小学校を新設、校区の一部を分離しました。

平成26年5月現在では、554人、19学級となっています。

平成32年度の推計値では、457人、14学級と減少傾向ですが、適正規模で推移していくことが見込まれます。

施設面では、耐震診断で校舎の一部と屋内体育館がC判定となっており、平成26年度に耐震補強工事を行います。

(2) 錦岡小学校

児童数及び学級数は、昭和53年に1,275人、32学級に増加したため、昭和54年に澄川小学校を新設、校区の一部を分離しました。その後も学級数は増加し、昭和57年に1,404人、35学級になったため、昭和58年に明德小学校を新設、校区の一部を分離しました。

平成26年5月現在では、443人、14学級となっています。

平成32年度の推計値では、418人、12学級と微減ながら、適正規模で推移していくことが見込まれます。

施設面では、耐震診断で校舎の一部がB判定となっており、平成26年度に耐震補強工事を行います。併せて、昭和40年代及び50年代に建築された校舎が老朽化しているため、外壁改修工事も同時に行います。

(3) 明德小学校

昭和58年に錦岡小学校の児童数増加により分離新設されました。児童数及び学級数は、昭和59年に695人、18学級ありましたが、平成26年5月現在では、185人、7学級と小規模校として位置づけられます。

平成32年度の推計値では、146人、6学級と小規模校として推移します。

施設面では、老朽化は進んでいますが、耐震上の問題はありません。

(4) 泉野小学校

昭和60年に澄川小学校の児童数増加により分離新設されました。児童数及び学級数は、平成4年に1,102人、31学級ありましたが、その後徐々に減少し、平成26年5月現在では、438人、13学級となっています。

平成32年度の推計値では、411人、13学級と横ばいで適正規模として推移していくことが見込まれます。

施設面では、老朽化は進んでいますが、耐震上の問題はありません。

3 Aブロック内の問題

このブロックは、4校の小学校が存在し、そのうち澄川小学校、錦岡小学校、泉野小学校については、児童数及び学級数の推計により、適正規模で推移することが見込まれます。

しかし、明德小学校については、小規模校として推移していくことになります。

4 適正化の方向性

Aブロックについては、学校規模適正配置の観点から3校が望ましいと考えます。

明德小学校は、今後、小規模校の解消が見込まれないことから、近接する錦岡小学校へ統合します。なお、統廃合の時期については、現在の在校児童に影響の少ない形で進めます。

5 適正化の内容

統合後の錦岡小学校は次のようになります。

(1) 校区変更

校区は、現行の明德小学校の校区すべてを錦岡小学校へ統合します。

(2) 統合後の学校規模

明德小学校の校区を錦岡小学校へ統合しても、適正規模で推移していきます。

		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
錦岡小	児童数	628	621	608	589	582	575	564
	学級数	18	19	19	18	18	18	18

(3) 通学距離

統合後の通学距離は、おおむね2 km以内にあり問題はありません。

※ 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

第4条2 通学距離が、小学校にあってはおおむね4 km以内、中学校にあってはおおむね6 km以内であること。

※ 苫小牧市基準

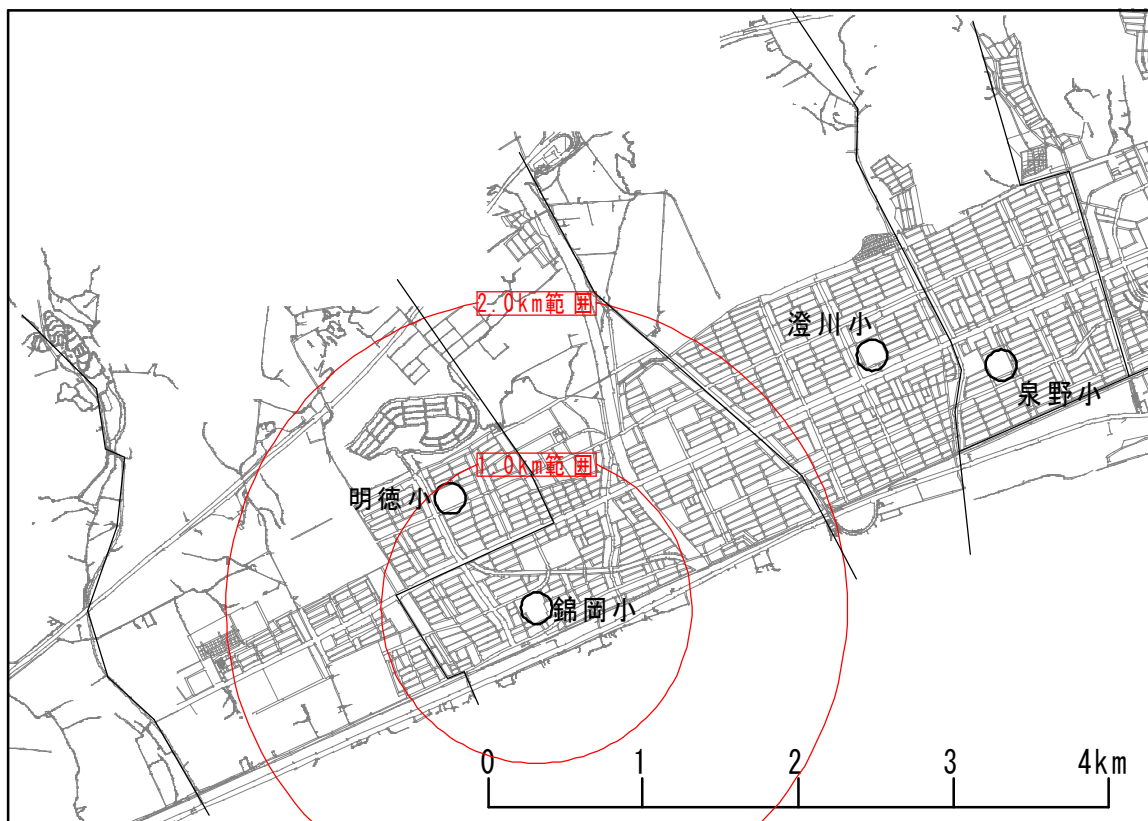
小学校でおおむね2 km以内、中学校でおおむね4 km以内とします。

6 Aブロック適正化の課題・対応

現在、錦岡小学校には14学級ありますが、統合後は18学級になるため4学級増えることになります。

このため、統廃合により不足する教室については、現在ある特別支援教室を普通教室に転用し、新たに特別支援教室を増築することにします。

Aブロック校区



Aブロックの範囲

学校名	通学区域
澄川小	澄川町 ときわ町 はまなす町 (2丁目1~4番) はまなす町 (2丁目5番「5番12号を除く」) 字錦岡 (1~50番地) (433~453「439番地の3・6(養魚場)を除く」) (459番地) (461番地) (466番地) (471番地) (479~481番地)
錦岡小	青雲町 のぞみ町 美原町 宮前町 明徳町 (1・4丁目) 字錦岡 (51~266番地) (272~327番地) (329~427番地) (463・464番地) (472・473番地) (476~478番地) (482~494番地) (518~520番地) (576~580番地) (582・583番地) (647番地 鉄南地区)
明徳小	明徳町 (2・3丁目) もえぎ町 字錦岡 (268・270・271番地) (328番地) (495~508番地) (521~574番地) (581番地) (584~588番地) (901・903番地)
泉野小	柏木町 川沿町 宮の森町 (1丁目1番) はまなす町 (1丁目) はまなす町 (2丁目5番12号) 字錦岡(439番地の・「養魚場」) 字糸井(363番地の一部)(366~368番地) (374~382番地) (383番地の1~4・7) (387番地) (420~421番地) (467・572・642番地)

■■■■ 小学校の規模適正化～Eブロック ■■■■

Eブロック内の小学校数は、現在、5校（苫小牧東小、苫小牧西小、若草小、大成小、糸井小）です。

Eブロックの児童数及び学級数は、11学級以下の小規模校が3校（苫小牧東小、苫小牧西小、糸井小）あり、現状では、規模適正化基本方針から考えると、小学校数は4校が適正となります。

しかしながら、推計値によると各校において児童数の微増が見込まれることに加え、まちなか再生総合プロジェクトや旧弥生中学校等の跡地利用の動向など、社会的要因による児童数の増加も視野に入れた検討も必要となります。

1 Eブロックの児童数及び施設状況

Eブロックの小学校5校の児童数及び学級数は、昭和57年には、5,175人、129学級ありましたが、平成26年5月現在では、1,476人、51学級に減少しています。

平成32年度までの児童数及び学級数は、微増で推移することが見込まれます。

施設面では、耐震診断の結果、苫小牧東小学校の校舎が耐震診断でC判定となっています。

(1) 児童数及び学級数の推計

※平成26年5月1日現在の児童数をスライド

		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
児童数	東小	232	232	246	242	248	248	258
	西小	191	206	204	208	222	229	244
	若草小	379	376	384	392	417	426	448
	大成小	428	431	422	409	403	383	390
	糸井小	246	247	250	252	270	261	277
	計	1,476	1,492	1,506	1,503	1,560	1,547	1,617
学級数	東小	9	8	9	9	10	11	11
	西小	6	7	8	8	8	9	10
	若草小	12	12	13	14	14	14	15
	大成小	13	13	13	13	13	13	13
	糸井小	11	11	10	10	11	11	12
	計	51	51	53	54	56	58	61

(2) Eブロックの学校施設状況

学校名	建物	建築年	面積(㎡)	耐震判定等	備 考
東小	校舎 1	S 37, 38	1, 727	C	コンクリート強度が低いため補強不可
	校舎 2	S 39, 50	1, 129	B	老朽化
	校舎 3	S 28	1, 612	A	老朽化
	校舎 4	S 37	187	B	老朽化
	校舎 5	S 37	637	A	老朽化
	校舎 6	S 40, 55	432	A	老朽化
	屋体 1	H11	1, 093	安全	
西小	校舎 1	S 51	2, 053	B	H27 補強工事 (予定)
	校舎 2	S 55	669	A	
	校舎 3	H13	2, 696	安全	
	校舎 4	H13	201	安全	
	屋体 1	H25	1, 092	安全	H25 改築工事済 (B判定)
若草小	校舎 1	S 50	375	A	
	校舎 2	S 58	1, 020	安全	
	校舎 3	H16	4, 523	安全	
	屋体 1	H7	1, 225	安全	
大成小	校舎 1	S 35	3, 104	安全	H24 補強済 (B判定)
	校舎 2	S 40, 44, 47	1, 487	A	
	校舎 3	S 57	1, 141	安全	
	校舎 4	S 57	140	安全	
	屋体 1	S 49	243	A	
	屋体 2	S 35	606	安全	H25 補強済 (B判定)
	屋体 3	S 59	351	安全	
糸井小	校舎 1	S 51	1, 211	安全	H15 補強済 (B判定)
	校舎 2	S 55	280	A	
	校舎 3	S 50	2, 900	安全	H15 補強済 (B判定)
	校舎 4	S 55	258	安全	H15 補強済 (B判定)
	屋体 1	S 50, 56	902	B	H27 補強工事 (予定)

※ 耐震上の判断基準 (耐震改修促進法に基づく告示参考)

A判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

B判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性がある。…耐震補強工事が必要

C判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。…耐震補強工事が必要

2 各学校の現状

(1) 苫小牧東小学校

児童数及び学級数は、昭和49年には、991人、27学級ありましたが、人口のドーナツ化現象に伴い、平成26年5月現在では、232人、9学級となっています。

平成32年度の推計値では、258人、11学級と微増傾向にありますが、小規模校として推移していくことが見込まれます。

施設面では、耐震診断で校舎の一部がC判定であり、コンクリートの強度不足により耐震補強が不可能であること、さらに、他の校舎についても、建築後60年以上経過しており、老朽化が進んでおり、改築が望まれる状態です。

(2) 苫小牧西小学校

児童数及び学級数は、昭和54年には、1,058人、27学級ありましたが、平成26年5月現在では、191人、6学級に減少しています。

平成32年度推計値では、244人、10学級と増加傾向にありますが、小規模校として推移していくことが見込まれます。

なお、当該校の特別支援学級は、肢体不自由児の拠点校となっており、市内小学校の特別支援学級の中でも重要な役割を担っています。

施設面では、耐震診断で校舎の一部がB判定となっており、平成27年度に耐震補強工事を行う予定です。

(3) 若草小学校

児童数及び学級数は、昭和56年には、1,379人、34学級ありましたが、その後徐々に減少となり、平成26年5月現在では、379人、12学級となっています。

平成32年度の推計値では、448人、15学級となることから、適正規模で推移していくことが見込まれます。

施設面では、平成7年度に屋内体育館、平成16年度に校舎を改築しており、耐震上の問題はありません。

(4) 大成小学校

児童及び学級数は、青葉・大成地区に高層の公営住宅が建設されたことで、昭和49年には、1,426人、34学級となり、昭和50年に糸井小学校を新設、校区の一部を分離しました。その後、昭和60年には、1,292人、31学級となった後、徐々に減少傾向となり、平成26年5月現在では、428人、13学級となっています。

平成32年度の推計値では、390人、13学級で適正規模で推移していくことが見込まれます。

施設面では、昭和59年に屋内体育館、61年に校舎の大規模改修を行いましたが、現在では老朽化が進んでおり、今後、改築が必要となってきます。

また、屋内体育館が耐震診断でB判定となっていたが、平成25年度に耐震補強工事を行いました。

(5) 糸井小学校

昭和50年に大成小学校の児童数増加により分離新設されました。児童数及び学級数は、昭和55年には、最大で797人、22学級ありましたが、平成26年5月現在は、246人11学級と減少しています。

平成32年度の推計値では、277人、12学級と微増となり、適正規模として推移していくことが見込まれます。

施設面では、屋内体育館が耐震診断でB判定となっており、平成27年度に耐震補強工事を行う予定です。

3 Eブロック内の問題

このブロックには、3校の小規模校がありますが、糸井小学校については、適正規模として推移していくことが見込まれます。

したがって規模適正化の対象としては、苫小牧東小学校、苫小牧西小学校の中心部の2校を考えます。

しかし、苫小牧東小学校、苫小牧西小学校の児童数は、平成32年度までの推計値では微増傾向にあり、さらに、学級編制基準児童数に近い学年については、児童数の増加に伴う学級増により適正規模となることも予想されます。

このことに加え、この地区では、まちなか再生総合プロジェクトによる中心部への人口誘導、旧弥生中学校や矢代道路事務所跡地の宅地開発など、社会的要因による児童数の増加も大いに考えられます。

4 適正化の方向性

Eブロックの規模適正化については、推計により現在3校ある小規模校のうち、糸井小学校は適正規模が見込まれます。

苫小牧東小学校と苫小牧西小学校については、推計では児童数が微増傾向にあることに加え、まちなか再生総合プロジェクトや旧弥生中学校跡地利用の動向など、社会的要因による児童数増加の可能性を考慮すると適正規模となることが十分に見込まれることから、現状が望ましいと考えます。

5 適正化の内容

ブロック内のいずれの小学校も、社会的要因を含めて考えると、適正規模が見込まれることから、現状維持の5校とします。

苫小牧東小学校については、構造上、耐震補強工事が困難なため、老朽化した校舎と併せて早期に改築による耐震化を図らなければならないが、また、近接する苫小牧東中学校についても改築による耐震化が必要となっています。

苫小牧東中学校は、通学区域にある苫小牧東小学校・若草小学校と小中連携教育の実践校として、平成25年度には文部科学省から指定を受け、現在は、教育委員会が研究を指定し小中

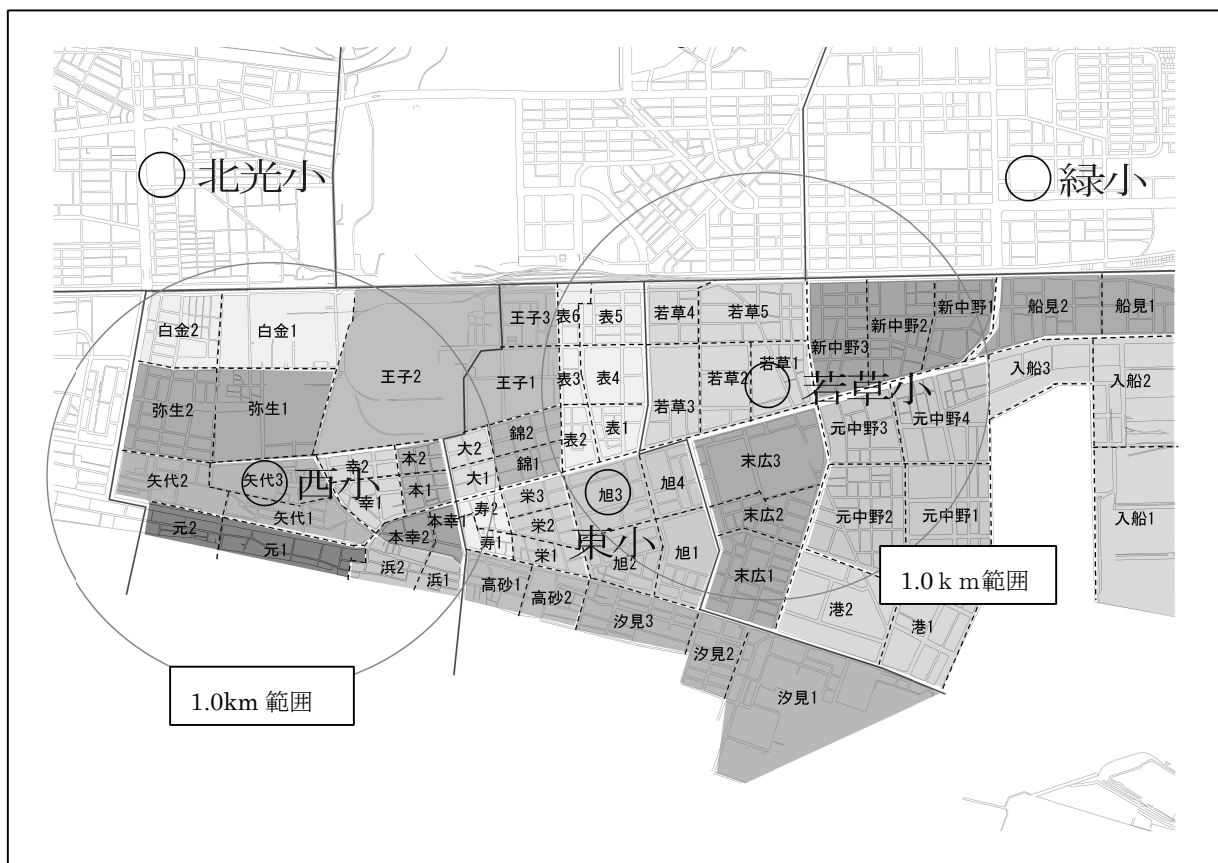
連携教育の推進に取り組んでおります。

こうしたことから、苫小牧東小学校については、近接する苫小牧東中学校の敷地に余裕があることから、苫小牧東中学校敷地内に小中併設校として建設することとします。

6 Eブロック適正化の課題・対応

苫小牧東小学校を苫小牧東中学校に併設する場合、苫小牧東小学校が苫小牧東中学校に移ることにより、立地場所が変更となることから、苫小牧東小学校、若草小学校の校区のあり方が課題となります。

Eブロック校区



ブロックの範囲

学校名	通 学 区 域
苫小牧東小	旭町 汐見町 表町 王子町 1・3丁目 栄町 錦町 大町 寿町 高砂町
苫小牧西小	幸町 白金町 浜町 本幸町 本町 元町 矢代町 弥生町 王子町 2丁目
若草小	新中野町 末広町 船見町 元中野町 若草町

■■■■ 中学校の規模適正化～Dブロック ■■■■

Dブロックの中学校数は、現在2校（沼ノ端中、青翔中）です。

Dブロックの生徒数及び学級数は、2校とも適正規模校となっていますが、1校（青翔中）については、今後増加傾向にあり、いずれ大規模校となることが予想されます。

1 Dブロックの生徒数及び施設状況

Dブロックの中学校2校の生徒数及び学級数は、平成26年5月現在では、1,132人、33学級となっています。

青翔中学校は、平成28年度には、19学級で大規模校となり、年々増加傾向にあります。

施設面では、沼ノ端中学校は、耐震上の問題はありませんが、屋内体育館の天井落下防止対策の必要があります。

(1) 児童数及び学級数の推定

※平成26年5月1日現在の生徒数をスライド

		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
生徒数	沼ノ端中	596	605	604	587	542	524	547
	青翔中	536	621	666	708	701	750	733
	計	1,132	1,226	1,270	1,295	1,243	1,274	1,280
学級数	沼ノ端中	17	17	17	16	16	15	16
	青翔中	16	18	19	20	20	21	20
	計	33	35	36	36	36	36	36

(2) Dブロックの学校施設状況

学校名	建物	建築年	面積(m ²)	耐震判定等	備考
沼ノ端中	校舎1	S40	1,377	安全	H21 補強済 (C判定)
	校舎2	S50	500	安全	H25 補強済 (C判定)
	校舎3	S61	1,145	安全	
	校舎4	H11	804	安全	
	屋体1	H11	1,129	安全	天井落下防止対策必要
青翔中	校舎1	H21	5,197	安全	
	校舎2	H26	1,234	安全	
	屋体1	H21	1,142	安全	

※ 耐震上の判断基準（耐震改修促進法に基づく告示参考）

A判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

B判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性がある。…耐震補強工事が必要

C判定～地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。…耐震補強工事が必要

2 各学校の現状

(1) 沼ノ端中学校

生徒数及び学級数は、平成20年に690人、20学級に増加したため、平成21年に青翔中学校を新設、校区の一部を分離しました。

平成26年5月現在では、596人、17学級となっています。

平成32年度の推計値では、547人、16学級とほぼ横ばいの状況となっています。

施設面では、生徒数の増加に伴い、プレハブ校舎対応となっていますが、耐震上、問題のない建物となっています。

(2) 青翔中学校

生徒数及び学級数は開校当時270人、9学級でしたが、平成26年5月現在では、536人、16学級となっています。

平成32年度の推計値では、733人、20学級と大規模校になり、今後の社会状況の変化によっては、25学級以上の過大規模校となる可能性があります。

施設面では、生徒数の増加に伴い、平成25年度に校舎を増築しました。

3 Dブロック内の問題

このブロックには、2校の適正規模校があります。

沼ノ端中学校については、生徒数が横ばい傾向で進むことから、プレハブ校舎の解消は難しく、さらに、今後のウトナイ地域の宅地造成の状況によっては、生徒数が増える要素があります。

青翔中学校については、今後も生徒数の増加が見込まれ、平成28年度には、19学級の大規模校となります。

4 適正化の方向性

Dブロックの規模適正化については、平成32年度の推計値では、沼ノ端中学校16学級、青翔中学校20学級となることから、規模適正化基本方針に基づき、ブロック内における中学校の配置は2校が適正であると考えます。

今後の自然増やウトナイ地域の宅地造成など、社会的要因による生徒数増加の可能性を見極める必要があることから、現状においては、人口増の推移を見ながら判断することとします。

5 適正化の内容

Dブロックについては、当面は沼ノ端中学校と青翔中学校の2校による現状維持とし、今後の人口の推移を注視することとします。

6 Dブロック適正化の課題・対応

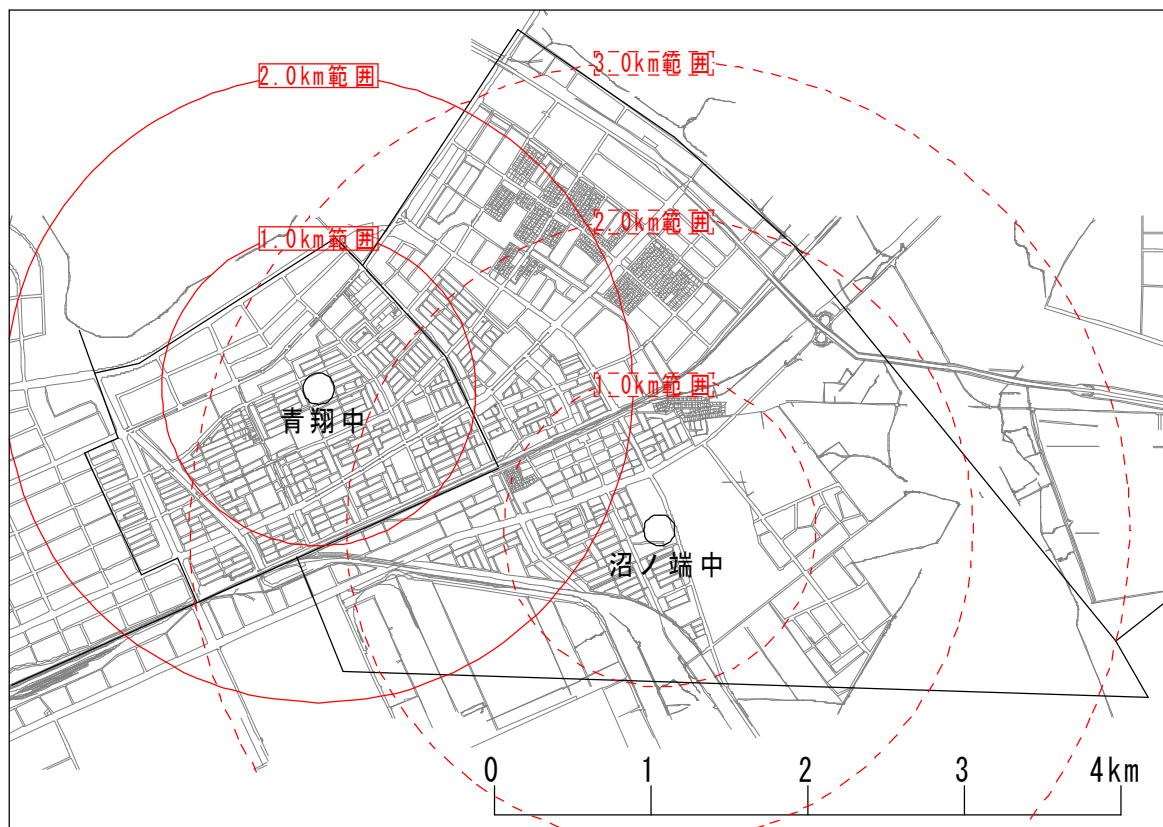
沼ノ端中学校のプレハブ校舎は、軽量鉄骨造の本格的な工法で施工しており、耐震上などの構造的な問題はありませんが、外壁や屋根は不十分なため、防音や断熱性などに問題があります。

また、ウトナイ地域からの通学生徒が多く、自転車通学での危険性や通学路の安全確保等についても配慮が必要です。

新設校の設置については、ウトナイ地域の宅地開発による社会的要因が大きく左右することになると考えられますが、将来的に青翔中学校が過大規模校となることを想定すると、現在の中学校予定地では、校区の関係上、青翔中学校の過大規模解消につながらず、また、沼ノ端中学校が6学級の小規模校となることから、規模適正化の視点から新設校の設置は難しいと考えます。

今後、新設校の設置については、規模適正化の視点からではなく、通学路の安全確保やプレハブ解消といった教育環境改善の観点から考えることとします。

Dブロック校区



Dブロックの範囲

学校名	通 学 区 域					
沼ノ端中	字沼ノ端	字柏原	字静川	東開町	北栄町	沼ノ端中央
青翔中	明野元町	新開1丁目	あけぼの町(1・2丁目)		拓勇東町	拓勇西町